

誇れる北中の実現

できる! だれでも! どこまでも!



1年家庭科 ティッシュボックスカバー作りより お手伝い
いただいた地域の皆様、ありがとうございました!

言語環境

思えば特に若い頃は、生徒に対してボロ力
又に言うことが少なくありませんでした。感
情的になって、叱咤と罵倒の区別もつかず、
言いたいことを言って、指導した気になっ
ていました。そんな時は、後で辛くなりました。
自分の指導の理不尽さに気付いて自己嫌悪し
てしまうのです。しかし、そうやって自分で
気付くときはまだいい方で、生徒や保護者、
同僚など、周りからの指摘で気付かされた時
は、間違った指導をした自分と、そのことに
気付かない自分の両方にいら立ち、さらに辛
くなりました。国語の教師という仕事柄、言
葉の大切さ重さを誰よりも理解し、正しく有
効に使わねばという思いはずっと持っていま
すが、未だ道半ばです。

学校では日々様々な言葉が飛び交っていま
す。喜びにつながるような言葉ばかりならい
いのですが、怒りや悲しみにつながるような
言葉も少なくありません。言葉そのものだけ
ではなく言い方も含めて、今の学級や学年、
ひいては学校全体の「言語環境」はいつも気
になっているところです。日常的に罵詈雑言
が飛び交う環境では、心はすさみ、ひどい言
葉を浴びせて相手を傷つけたとしても「冗談
で言った」という言い訳が出てくるものです。
他にも、「みんな言ってる」「悪気はなかつ
た」「そんなつもりではなかった」「自分は
同じ言葉でも傷つかない」等々、心が傷つい

ている相手を慮ることなく、自分を正当化し
がちになります。

子どもの日常生活の中で、相手を攻撃する
言葉や、何気なく使った言葉が、強い差別性
をもつ言葉であったという事例はたくさんあ
ります。発覚するのはそれに気付く誰かがい
たときのみです。だから、露見するのは氷山
の一角です。使った理由で最も多いのは、友
人間やネット上、そして家庭で使われていた
から自分も使ったという誤学習です。さまざ
まな情報や考え方が発信される今の世の中で
子どもたちには何が正しいのかを見極める力
と言行の判断力をつけていかねばなりません。
全ての学校は教育の土台に人権教育を据え
ています。家庭教育の土台も同様かと思いま
す。人を傷つけてしまう子どもではなく、人
を癒し元気づけるような、誰かの活力になる
ような子どもであってほしい、そういう人に
育ってほしいという願いは、学校も家庭も間
違いなく同じだからです。差別的発言をする
子どもは増えていますが、一方でそれに気付
き指摘できる子どもも増えていきます。後者を
より増やしていくために取り組みます。

今、各学年では人権学習を進めています。
子どもの学びをご家庭でも引き出して、話題
にしてください。子どもの学びが深まるだけ
でなく、子どもの考え・感性に大人が学ぶこ
ともたくさんあります。